

地形・地質

石見高原は島根県の中央部の山陰海岸に沿って5~15kmの幅で分布し、比較的平坦な丘陵状の高原が広がります。

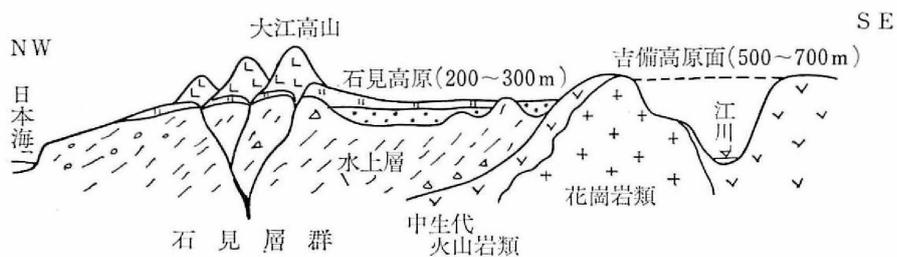
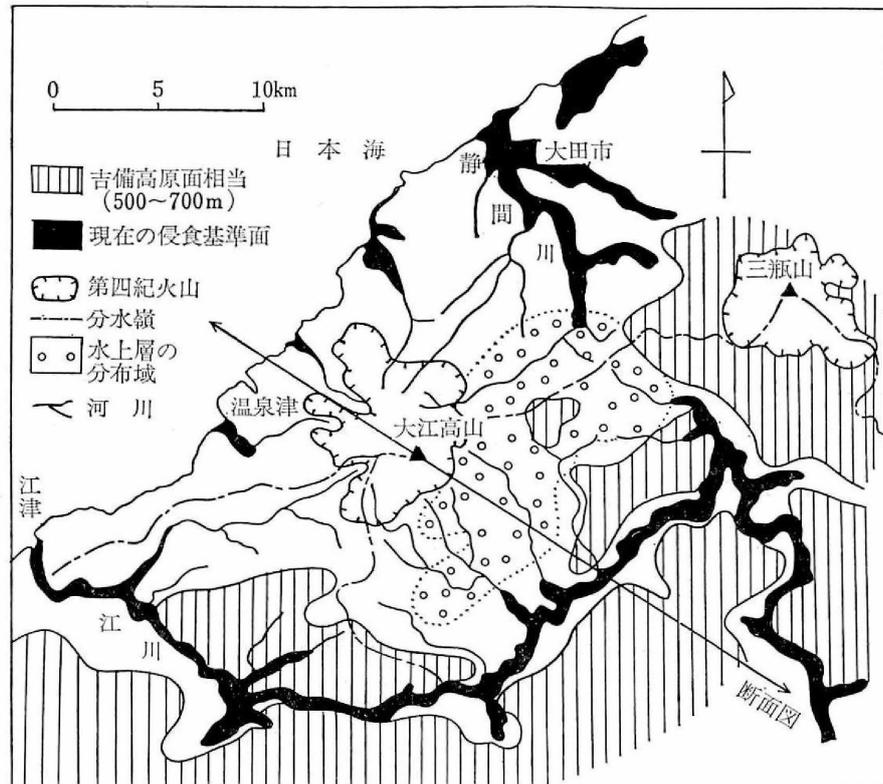
地質時代	層名	模式柱状図	層厚	岩相
第四紀	更新世	沖積層・崩積層		砂礫
	更	三瓶山火山岩類	3m+	スコリア質火山砂
			10m+	火砕流
	新	大江高山火山岩類	400m	石英安山岩 凝灰集塊岩
都野津層		100m	石英砂 シルト	
都野津層群		10m~ 50m 40m		火砕物
世	水上層	50m ~80m	礫・砂 シルト・粘土	
第三紀	石見層群	10 ~80m	火砕物	
先第三紀	花崗岩類	+	花崗岩, 閃緑岩	
	中生代火山岩類	△	流紋岩~石英安山岩類	
	三郡変成岩類	~	黒色片岩, 砂質片岩	

◎ 帯水層

石見高原地域の模式地質柱状図

地下水

先第三紀層と石見層群は、水文地質的には不透水性基盤で、これらを覆う都野津層群のうち、帯水層となり得る層相は水上層と大江高山火山岩類です。大江高山の山麓には小規模な湧水が多数あります。



島根県大田市付近の地形概念図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）